令 和 ２ 年 第 ３ 回
上小阿仁村議会定例会

会　議　録

令和２年６月１０日（開会）

令和２年６月１２日（閉会）

○議長（伊藤敏夫）　次に３番　武石辰久君の発言を許します。はい、武石辰久君

（３番　武石辰久議員　一般質問席登壇）

○３番（武石辰久）　最初に人口減少と少子高齢化対策の定住・移住施策の実行について村長に伺います。

1 つ目であります。本村は少子高齢化に伴う人口減少が県内トップとなっております。村長はこの対策を就任の施政方針で最重要課題であると述べております。

昨年６月に、今年度が最終年度の村の「過疎地域自立促進計画」を変更しました。また、今年３月には、今年度から令和６年度まで５カ年の推進計画として「第２期上小阿仁村まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。第1 期の過去 5 年間の戦略の検証と改善により、さらに政策の取り組みを加速していくとしております。

定住、移住施策の実行には、第１に職員等専門担当部門の体制づくりの強化が急務であると思います。

村長の考えを教えてください。

2 つ目は、昨年度までの第１期総合戦略では、移住・定住について、ホームページ掲載や、ビデオ、パンフレットの製作。1 回は首都圏において秋田県内参加自治体のブースで移住相談会をやっておりますが、まだ移住成果に結びついていないようです。

第２期目総合戦略を推進するためには、まず、能動的に村への移住・定住指向を把握する必要があると思います。各地域のふるさと会員や、村との関係者、事業者等へのアンケートの実施と協議、話し合いの場等を積極的に進め、それらを元に、さらに具体策をたてるべきではないかと思いますが、村長の考えを伺います。

○議長（伊藤敏夫）　村長の答弁を許します。

（中田吉穂村長　登壇）

○村長（中田吉穂）　武石議員の人口減少と少子高齢化対策の定住・移住施策の実行についてということのご質問についてお答えしてまいりたいと思います。

私は、就任当時の施政方針において、子どもさんから高齢者の方まで、この村に住み続けたい、安心して暮らしたいと願う多くの村民の思いと期待に添うよう努めたいという、村づくりに向けた私の思いを申し上げました。

そのうえで、人口減少と少子高齢化問題を最重要課題とし、移動手段を持たない高齢者世帯に対する生活サービスが緊急の課題だと考えており、移動販売車の運行も、その一部でございます。

移住・定住対策はもちろん、こうした課題解決に向けた取り組みにあたって

は、総務課企画班が全庁横断的に調整しながら推進しているところでございます。

それぞれ自治体の中では、集中的に取組んで成果をあげているところ、その反面、いろんな組織全体の事情、或いは地域の様々な事情があって、一概に同様な取り組みというわけにはいかないだろうと思っておりますけれども、参考となるものは取り入れながら、村ならではの体制づくりを図ってまいりたいと考えているところでございます。

体制強化を図るには人材が必要でありますが、そのための職員研修や協力隊の募集などもおこなっていきたいと考えています。

人口減少、それから移住・定住というのは、言葉で言うのは簡単ですけれども、これがなかなか何処の自治体もなかなか難しい。

秋田県では、まず鹿角市なんかは、すごく移住・定住が進んでいるというふうに聞いております。やはりそういったところをもう少し我々も勉強しなければならないではないのかなと。ただ単に待つの姿勢でなくて、やはりこれからは責めの姿勢ももっていきたいなというふうに、今武石議員のおっしゃるとおり、そういったことを考えながら進めていかなければいけないと思います。

ただ、来る人方にとって、この村に何が魅力があるのかと、その魅力づくりも、私は大切なことではないのかなと考えておりますので、何か皆さんのご意見などを参考にしながら頑張っていければなというふうに思っております。

行政の中で、物事を調整するのはできるわけですけれども、頑張って先にたつそういう人方は、村の村民でなくてはならないと思うのです。そういう人方がいてこそ、いろんな人を呼びこめるというふうに私は考えておりますので、いろんな方々にいろんな頑張りを期待して、この移住・定住、組織づくりは村の方で職員と一緒になって頑張っていきたいなと考えております。

それから、ふるさと会員やアンケートなど関連の方にやったらどうかというご提言でございます。

村では昨年度「秋田県移住・就業支援事業における移住支援金交付要綱」を制定し、「まち、ひと、しごと創生総合戦略」に基づいた移住・定住対策を推進しているところですが、マッチングサイトに掲載されている企業への就職や一定の移住要件があり、なかなか実際には結びついていないのが現状であります。

ふるさと会員に対するアンケートということで提案もありましたが、設立したのは大分前のことで、機会あるたび帰郷を呼びかけておりますが、あまり効果はないと思われます。

現在、県で作成している「秋田県移住・定住総合ポータルサイト」では、県内市町村の様々な情報が発信され、本村でも結婚、出産、子育てなどの支援事業や、通勤・通学、就業に関する補助制度など、情報提供に努めているところ

であります。

また、毎年東京都内で開催される移住・交流推進機構主催の移住相談会などにも参加して、面談しながら丁寧に村の情報発信に努めております。今後も移住・定住につながるよう、粘り強くＰＲしていきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（伊藤敏夫）　はい、武石辰久君。

○３番（武石辰久）　相談窓口や相談の受け入れ体制の充実している自治体は、移住者が増加し、先ほど鹿角市の例を村長があげましたけれども、成果が上がっております。また、優遇支援助成制度の比較と理解によって、県内では移住が増えてきている自治体もあります。

先進地では、職員や住民の熱意と、きめ細かな親切な対応が自治体のイメージをアップし、移住・定住につながってきております。成果をあげるためには、職員の研修等によるスキルアップや各課の連携協力が欠かせません。国、県、各機関、団体等の連携と協議も重要であります。

戦略計画では、専門担当のコーディネータも配置すると記載されております。早い時期に配置すべきだと思いますが、やはり進めていくためにいつごろ、どのような人を置く予定であるか、そういう計画を載せておりますので、村長の考えがあれば教えていただきたいと思います。

○議長（伊藤敏夫）　はい、村長。

（中田吉穂村長　登壇）

○村長（中田吉穂）　こうした移住・定住というのが、行政で、皆でやっていくというのは大変難しいと思います。成功しているところによりますと行政ではなくて第３者機関、そういったところが移住・定住の役割を担って進めているというふうに私は聞いております。

行政がこれを担ってやるとなれば、いろんな制約があって、やはりかなり難しいのではないかなというふうに思います。できれば、そういう移住・定住の機関を、民間の機関があれば、そういう方々が一緒になって、例えば、大工さんとか、いろんな方々がやって、そして空き家を改修したり、農業の人方と空き農地ですか、そういったことを手配しながらとか、いろんなことが可能になるわけです。

そういった形で、行政がこれを担って、我々やっていくとなれば、仕事もプロでもないし、好き嫌いとか、いろんなことで辞めるわけにもいきませんので、私は行政では担えない、いうふうに思います。

ただ、こういうのができないか、斡旋するとか、そういうのはできるわけですけれども、これを行政が、職員が先頭にたって、この移住・定住を行っていくのはかなり難しいのではないかなというふうに考えます。議員の意見はどう

でしょうか。

○議長（伊藤敏夫）　はい、武石辰久君。

○３番（武石辰久）　村長が、施政方針で最重要課題だということを述べたということで、私、そういう意味で、やはりこの移住・定住というのは一歩でも進めていかなければ、上小阿仁村の存続というものがつながってくると思います。村長の強い決意だと思ってまず質問したわけですけれども、やはり村長が今言ったように行政だけはできないわけです。ただ、窓口が、やっぱり行政としてそういう対応を図っていくのが、先ほど述べたように各市町村のイメージというものが、親切な対応が、やはり、そういう移住に実績となって表れてきているのが事実なわけです。

難しいわけですけれども、村長の決意があるということで、何とかそれを進められるように頑張ってやっていただきたいと思います。

隣りの北秋田市では、大分そういう面でも力を入れて、行政でもやってきております。北秋田市や先進自治体では、今、スマートフォンやパソコンなどでの「オンライン移住相談」を開催するなど推進を図ってきております。

具体的な計画の取り組みを、積極的に行っていただくよう要望したいと思います。

それと、国でも秋田県でも、これを大きい重要な課題ということで、秋田県ではいろんなＡターンサポートセンター、そういうものを東京に置いたり、事業所に委託して ＮＰＯの回帰センターですか、そういうところとも連携して、委託して、やはり進めておりますので、是非そういった連携も村として、村長が今言ったように行政だけではできないので、連携も踏まえて、そして外部からのコーディネータというそういうノウハウを持っている人もおると思いますので、そういうコーディネータ、まず戦略計画には関係人口のコーディネータということで、置くということでうたっています。それを是非一歩進めて配置して、その体制の強化を是非図っていただきたいということを要望したいと思います。

○議長（伊藤敏夫）　はい、村長。

（中田吉穂村長　登壇）

○村長（中田吉穂）　意見はいろいろあると思います。ただ、私はどういった人をターゲットにして、この村に呼び込むのか、そこをきちっとしなければいけないのではないのかなと思います。

村でも東京の方に行って、この移住・定住の職員が昨年度も行っています。いろんな方とも意見交換し、知っている人とも意見交換をしているのです。ただ、単に窓口があれば人が来るわけではなくて、やはりその人方がどういう考えをもって移住･定住をしたいと思っているかということが第一段階の時点で、

我々に伝わってくるような、そういう形を今とろうとしているわけです。そういう形から入っていくしかないのです。いろんなコーディネータとかあるかもしれません。あるかもしれませんけれども、専門的なことを覚えている人が必要かとしれませんけれども。例えば、この村にきたら犬を飼えるし、都会で飼えないものを飼えるわけです。何かをやっぱり都会と差別化して、上小阿仁に行けばこういうことができるとか、そういうことを我々が実際に訴えて、それを聞いてもらって、そして村に呼び込むという形をとらなければ、ただ単に、機構を揃えて来てくださいと言っても、私は、それは無理だと、ですから、そういったことを今、都会に行って移住・定住のそういうところに出かけて行って、そこに来る人方がどんなことを望んでいるのか。上小阿仁は子育てにすごく補助金制度があって住みやすいし、ただ住宅費が若い人にとっては高いのだと、一生懸命働けば、働くほど給与が高くなれば住宅費も上がっていく、そういったものを、ではどうするか。それを安くする。もしかすればそういう子育て世帯には一律の住宅費だけで、あとは村で補助するとか、いろんなことを考えながら提供していくと。不便なところを便利なようにして提供していくことを考えて、そして発信していった方が、私はいいのでないのかなと、自分なりには考えております。そういったことを進めながら、移住・定住、もちろん大事です。来てもらえることはいいのです。だけれども、来てもらって、イヤー違ったなと言われないよう、やっぱり最初から状況をきちっと、情報を発信して与えていく。そして納得して来てもらうのが一番いいのではないのかなというふうに考えます。

以上、多分アイデアもいろいろ持っていると思いますので、そういったものをあとで聞かせてもらえればありがたいなと思います。

○議長（伊藤敏夫）　次の質問に入りますけれども、時間的には 10 分少々しかありませんので、そこらへんを配慮しながらお願いします。

（「19 分あります」の声あり）

はい、武石辰久君。

○３番（武石辰久）　２つ目の質問に入りたいと思います。

今、村長がお答えされた面では若者定住の関係とダブってくると思いますので、そこでまた質問したいと思います。

次に「若者定住の環境整備施策について」伺います。

１つ目、村の存続は、後継者である若者が担う訳ですが、村長は、昨年 6 月の施政方針では、若者定住の環境を整備すると述べております。若者が定住・移住するためには仕事がなければなりませんが、雇用創出、起業等を含めて既存制度のうえにさらにどのような支援をしていくのかを伺います。

2 つ目は、村内では、若者同士の話し合いや集まりの機会が少ないと思われ

ますが、どうでしょうか。

村を存続するためには、後継者となる若者の思いや声を村政に反映させていかなければならないと思います。

自主的、自発的な活動や取り組みを尊重し、支援することが基本だと思いますが、各集落の青年団・若勢団や、既存グループ、同好会、スポーツ、文化クラブ等の若者のメンバー、一般青年、学生等への呼びかけで、最初のきっかけづくり等の機会をつくれないものでしょうか。機会を持続できるような支援もできればいいかと思いますが、その施策と支援策を伺います。

○議長（伊藤敏夫）　はい、中田村長。

（中田吉穂村長　登壇）

○村長（中田吉穂）　お答えします。

最初の雇用に対する環境整備、どのように支援していくかというご質問であります。

①の雇用に対する環境整備としましては、資格取得支援事業費補助金として、就業に必要な資格の取得に要した費用を補助する制度があります。少しでも有利な条件での就業につなげてほしいと考えております。

また、個人事業者支援事業補助金は、新規に特産物の開発等を行う個人事業者に開発や宣伝広告等に要した費用を補助する制度です。村で起業したい方には、是非利用していただきたいものです。

また、農家民宿の支援制度などもありますので、相談いただければと思います。

さらに、新型コロナウイルス感染症の影響により経済が落ち込んでいる状況にあって、村内で雇用を維持することが難しいところもあると思われますので、時限的な支援策についても検討してまいりたいなというふうに考えております。

コロナウイルスが発生してから、こうした移住・定住こういったこともなかなか真剣に話ができないような、県外との交通の遮断等もありまして、どこの自治体も今中断しているような状況だと聞いております。

そういった中でも、村としてできる範囲で支援策、そういったものがありますので、子育て世帯に、私一番考えていたのは、さっき話した住宅費の軽減をやりたいなと。若い世代が子育てする場合に5万円も6万円も住宅費を払わなくても、1万5,000円ぐらいで、あと残りは村で負担していくと、支援していくというふうな形をとれないものかなというふうに考えております。そうした支援策も必要でないかいうふうに考えております。

それから、2つ目の若者同士の話し合いや、集まりの機会が少ないと思われるが、若者の思いを反映させるための施策と支援策はというご質問であります。

地域を守り、次代の社会を担う若者の育成は、上小阿仁村を維持していくう

えで重要な施策のひとつであります。

しかしながら、人口減少や労働形態の多様化など、若者を取りまく環境は厳しさを増しているのも現実です。その中で、様々な活動をしている青年層が福祉やまちづくりの地域活動に参画していただけるように、若者にも総合戦略などの計画立案等の会議に出席していただいているところであります。

また、村内には、上小阿仁和太鼓保存会やスポーツ同好会など、若者グループによる活動団体も存在しています。現状では、若者を組織化するのは非常に難しいわけですが、公民館活動を通じて、村内で活動する若者に若者交流会に参加するよう促しているところでございます。

若者交流会に登録していただいた方には、若者向けのイベント情報などをＩＣＴによる通信を用いて提供しております。登録者の負担が過度にならないよう検討しながら育成を行っているところです。こちらの活動についてもご理解をお願いいたします。

以上でございます。

○議長（伊藤敏夫）　はい、武石辰久君。

○３番（武石辰久）　近年、若い人の地方回帰の指向が多くなってきている傾向であります。また大都市の新型コロナ感染拡大による影響もあり、国民の意識が地方移住・定住指向になってきていると言われております。

コロナ時代の働き方改革で、テレワークが増えております。村内は光ファイバー網が開通しており、テレワークの環境が整っております。起業と雇用創出につながるサテライト個室の開設など、コアニティーのレンタルルームの利用や空き家利用への積極的な取り組みが必要であると思います。

最初の質問の定住・移住施策と共通しますが、村出身者や関係者で、村外で会社事業等で成功されている方へのトップセールスなどにより、村内での起業を依頼できないか、伺います。

○議長（伊藤敏夫）　はい、中田村長。

（中田吉穂村長　登壇）

○村長（中田吉穂）　お答えいたします。

実は、質問事項にないことを、ボンボン話されても責任ある答えがなかなかしぬくいです。調査したり、何処にどういう方がいるのか、そしてそういう方がどういう考えをもっているのか、やはりそうした方の話し合いの機会がなければ、簡単にこの場において、はい、やります。トップセールスしますとか、そういう答えはできないわけです。そこら辺はご理解願いたいなと思います。

できるだけ情報を集めて、そしてテレワークでもできれば企業がこの地域に来て、コアニティーでも事務所を使ってもらえれば、これに越したことはないわけですけれども、簡単には行かないのではないのかなというふうに考えます。

まず、いろんな情報を集めて、それからだというふうに考えますので、答えの方はそれ以上踏み込んでできませんので、よろしくお願いします。

○議長（伊藤敏夫）　はい、武石辰久君。

○３番（武石辰久）　村長が、冒頭に村長に申し上げたように、村長のそういう取り組んで行く重要な課題だという認識が私あったものですから、考えがあれば、それを聞きたいということで今質問しているわけですので、よろしくご了承お願いします。

それで、やはり村の魅力を打ち出していくと、村長が言ったようにいろんな形で村を見出していかなければならないと思います。そういう意味で過疎計画にも載せてきておりますが、多分パンフレットの作成予算だけかなと、そのほかに移住相談とかもあると思いますが、そういう動画を５年ぐらいの予算を見てきておりますが、こういった村長が言う上小阿仁で結構いい制度を私はつくっていると思います。

こういったものをまたさらに、新しい制度もやっておりますので、是非またＰＲというのが大事だと思います。情報提供が大事だと思いますので、こういうものをやはり生かして上小阿仁のいい制度を是非わかってもらえれば、やはり上小阿仁いいところだなということで、来るかもしれません。そういった取り組みを前進させていただきたいと思います。

それで若い人、そして全村民が村の将来に希望をもち、村に生まれてよかった、村に住んでよかったと言えるように村の重要課題を乗り越えていかなければならないと思います。今後も話し合いを深めていきたいと思います。力を合わせていきたいと思います。

これで私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（伊藤敏夫）　これで一般質問は終わります。